

## 淀川水系流域委員会 第 24 回猪名川部会 結果概要

開催日時：2004 年 12 月 3 日（金）14：00～17：10

場 所：天満研修センター 9 F イベントホール

参加者数：委員 10 名、河川管理者（指定席）12 名

一般傍聴者（マスコミ含む）107 名

本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

### 1．審議の概要

#### 余野川ダムの調査検討に関する報告と意見交換

開削案を提示したことについて

開削案の内容について

検討対象洪水について

今後の展望について

### 3．一般傍聴者からの意見聴取

## 1．審議の概要

### 余野川ダムの調査検討に関する報告と意見交換

余野川ダムの調査検討について、河川管理者より資料 1 - 1 「ダムの調査検討について」を用いた説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

#### 開削案を提示したことについて

- ・第 8 回ダム WG で提出された案と異なっている。第 8 回で示されたものは、新たな遊水地案と一庫ダムの堆砂容量の活用案および放流操作の変更案でクリアできるという説明だったのではないか。

第 8 回で示したものは、総合治水対策の洪水目標をクリアする案であり、今回説明したのは、それに加えて昭和 58 年 9 月洪水をもクリアできる案である。第 8 回  
の案では、昭和 58 年 9 月洪水については洪水被害の解消を図ることができない。  
（河川管理者）

- ・これまで狭窄部は自然の歴史的な景観もあり開削しないことを前提に検討してきた。今回の報告により開削案が示されたが、河道掘削の規模が大きくとまどっている。また、掘削の仕方によっては攪乱が置きやすい場所が出てくるのではないか。
- ・4 年間の流域委員会の議論の中で、委員からかつて出された下流部での河床掘削の提案を、河川管理者が環境への影響を理由に取り消されたという経緯がある。今回のように方向転換する際は、河床掘削等により自然環境にダメージを与える危惧がないか等、十分説明してもらえるようにさらに検討して欲しい。

- ・一庫ダムには 360 万 m<sup>3</sup> の不特定用水がある。これは農業用で簡単にいじれるものではないかもしれないが、農業の実態が変化していることもあるので、一時的に利水容量に使用可能かなど調べていただきたい。現状では、どの程度までわかっているのか。

農業用水については、一度取水量の調査を実施したが、利用状況については引き続き調査していきたい。(河川管理者)

- ・開削により下流の水位があがるので、下流にとっては危険性が増す。開削ありきで進むことは危惧するところである。堤防補強や流域対応など、流域でできるだけ雨量を受けとめていく中で浸水被害を解消する努力をすることが理念となっているので、引き続き流域での対応策も検討を続けてほしい。

開削により下流に影響が生じるので、対策を要すると認識している。流域対応も重要と考えている。この資料はダムの検討のためのものであるので、直接関係する論点をまず検討した。(河川管理者)

- ・河道の中での対策以外に、流域の隅々までわたる対策というものがある。浸透ます、浸透舗装の他にも森林の保水力の活用など、主体が異なる場合は支援や協力、連携などを視野に入れ、河川の外の対策も含めて全体的に検討して欲しい。
- ・多田神社付近の開削工事については初めて出てきたものである。多田神社前の御社橋は橋脚が多いこと、市民の親水空間にもなっていること等にも配慮した検討をお願いする。

### 開削案の内容について

- ・資料の開削部の横断図だけでは掘削の具体的な姿がわかりにくい。開削によって景観がどう変わるかという図面はあるか。

詳細は今後の検討となる。景観にも配慮する。どのような景観イメージになるのか、平面図、鳥瞰図などを含めた形で示していきたい。(河川管理者)

- ・資料によると、戸の内地区では銀橋を開削し、下流の河床掘削を施しても越水してしまうが、そもそも開削しなかったらどうなるのか。

開削しない場合も氾濫する。また、資料を提出したい。(河川管理者)

- ・余野川ダムの残りの事業費が 290 億円であるのに対し、河床の掘削は 260 億円ですみ、30 億円コストを低く抑えられるとされているが、河床掘削費用の根拠を示して欲しい。個別にかかる費用を積み上げて今回の数字となっている。掘削量など算出しているので、改めて提出したい。(河川管理者)

- ・下流から始めて上流の整備に、工期はどの程度かかるのか。

堤防強化を優先していくが、概ね 10 ヶ年で可能ではないか。

- ・掘削は 260 億円ですみ、ダムの残りの事業費 290 億円と比べてコストが小さいとされているが、下流での対策を進めるとそこでも費用が発生することになる。下流対策のために、結局余野川ダムが有効であるということであれば、比較の考え方が変わってくるのではないか。

### 検討対象洪水について

- ・先日視察した由良川では治水の目標が既往最大ではなく昭和 57 年 8 月となっており、今回の 23 号台風は目標と既往最大の間に位置するものであった。既往最大をクリアすることができないからと低い目標を設定し、既往第 2 位の昭和 58 年 9 月洪水をクリアすれば良しとすることには危惧を感じている。

目標設定については、与野川、猪名川に限らず淀川水系全体について、この洪水までやれば良いというものではないと認識している。しかし、ここでは既往第 1 位が降雨量、降雨パターンともに特異な降雨であることから既往第 2 位以下を検討対象とした。第 1 位を目標とすると、ダム建設、開削とすべて実施しても不十分で、流域委員会も目標とするのはどうかという意見であった。(河川管理者)

- ・対象洪水が第 1 位から第 2 位に変更したことについて部会としてどのような意見を持っているか。

### 今後の展望について

- ・この案で今回の目標はクリアできたとして、さらに大きい降雨が来たことを考えると、これまで検討された代替案の中にも有効なものはあるように思える。そういう他の取り組みについては、実施する必要はないということになるのか。

今回は開削に焦点をあてて検討した。ここに示されているもの以外の上流対策、下流対策は引き続き検討する。(河川管理者)

- ・当初、委員会の基本方針としてダムに変わるあらゆる代替案を考えた上で、なおかつダムが一番有効と言う場合に限りダムを、という話が前提にあった。今回、本来は猪名川部会では狭窄部の開削をしないといっていたけれども、開削案が代替案として出てきた。開削が妥当だという判断になれば余野川ダムをつくる必然性は現時点ではなくなるという判断でよろしいか。

銀橋の上流に対しては開削で対応可能ということ。下流に対しては、河床掘削に加え、余野川ダムも効果はあるが、他にも検討したい。(河川管理者)

## 2. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・銀橋の上流に対しては開削に効果が認められる、という案はいずれ出てくると思っていた。今回は、これに加えて、開削により影響が生じる下流に対しては余野川ダムが効果あり、という資料が提出されている。雨の降り方によっては、戸の内地区では現状よりひどい結果となる可能性があり、これで解決したと安易に考えるべきではない。